

<問い合わせ状況 2022年2月>



● 院外処方せんに関連する問い合わせ

当院は院外処方せんを発行しています。処方内容などに疑義が生じた場合の窓口は薬剤師となっており、月に5~10件程度の問い合わせに対応しています。2月の疑義照会は5件で、内容は以下の通りでした。



- 用法用量確認 (2件)
- 日数変更 (1件)
- その他 (2件)

● 薬に関する問い合わせ (患者・家族・施設より)

患者さんやご家族、施設の方からの質問にも対応しています。
2月は質問がありませんでした。



● 薬に関する問い合わせ (院内より)

他部署スタッフからの質問にもお答えしています。2月は記録したもので12件でした(病棟で直接質問されたことは未記載の可能性あります)。

◎が ついたものについては回答をDI ニュース No. 444 に記載しています。

- ハンブ®とフロセミド注は配合変化があるか?
- ◎イクスタンジ®の副作用の下痢は用量依存または投与期間の長さが影響するか?
- エディロール®とアルファロール®を併用することがあるか?
- ドブトレックス®とワイスター®は配合変化があるか?
- 麻薬切り替えの用量などについて
- ◎高カロリー輸液のフィルターの下からミノサイクリンを投与して良いか?
- ◎スルピリンは消化性潰瘍患者には慎重投与だが、直腸潰瘍の場合は?
- セリンクロ®は入院中には不要と思われるが、処方した場合の保険適応はどうか?
- ◎ヘパリンカルシウムシリンジのブリスター包装を開けてしまったが後日使えるか?
- アルダクトン®細粒 10%とスピロラクトン錠 25mg の変換について
- オドメール®と同じものは何か?
- アルダクトン®とソルダクトン®の対応量は?

